

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

口臭への対応と口臭症治療の指針 2014

日本口臭学会ガイドライン策定委員会（委員長：角田正健）

竹田印刷、2015年5月27日 第1版第1刷発行

■1 漢方薬

疾患：

口臭

引用など：

岡村興一. 歯科臨床に役立つ漢方の合理的視点 5 口臭の弁証論治. *Quintessence* 1995; 14: 1076-80.

有効性に関する記載ないしその要約：

『岡村は、口臭の弁証論治を述べ、脾熱・胃火・肺熱・食滯・気鬱・血瘀・脾虚・痰濁・湿熱など中医学の病理的素因を挙げており、口臭治療に対する漢方の有用性を示唆している。』

■2 白虎加人参湯、八味地黄丸

疾患：

口臭

引用など：

亀山淳史. 口臭を主訴とした患者に対する漢方エキス剤の応用. *日本歯科東洋医学会誌* 2004; 23: 1-13.

有効性に関する記載ないしその要約：

『亀山は、歯周治療などの歯科治療を行った結果、口臭の改善が見られなかった症例に、漢方である白虎加人参湯・八味地黄丸を処方し良好な成績を得ている。』

■3 漢方薬

疾患:

口臭

引用など:

増田めぐみ, 村田和也, 松田秀秋, ほか. 口臭に用いる漢方処方と生薬の来歴と現状. *薬史学雑誌* 2011; 46: 5-12. [MOL](#), [MOL-Lib](#)

有効性に関する記載ないしその要約:

『増田らは、西暦 610 年から 1847 年までの、中国の歴代医書における口臭の病理病態をまとめるとともに、口臭の治療処方を紹介している。』

■4 甘草瀉心湯、生姜瀉心湯、半夏瀉心湯、白虎加人参湯

疾患:

口臭

引用など:

柿木保明. 高齢者の口腔乾燥症. *DENTAL DIAMOND* 2002; 37: 42-7.

■5 白虎加人参湯、八味地黄丸、麦門冬湯、十全大補湯、五苓散など

疾患:

唾液分泌改善

引用など:

柿木保明. 高齢者の口腔乾燥症. *DENTAL DIAMOND* 2002; 37: 42-7.

<以上 4~5 の記載として>

有効性に関する記載ないしその要約:

『現代の口臭治療に用いる日本漢方処方として、甘草瀉心湯・生姜瀉心湯・半夏瀉心湯・白虎加人参湯を挙げている。また、唾液分泌改善効果のある漢方薬として、白虎加人参湯・八味地黄丸・麦門冬湯・十全大補湯・五苓散などが挙げられている。』

■6 漢方薬

疾患:

口臭

有効性に関する記載ないしその要約:

口腔ケア製品・薬剤の応用の漢方（東洋医学）の応用の項に、下記の記載がある。
『漢方医療では、口臭は口腔局所に限定された病変ではなく心身の失調に基づくと考えられている。生薬の薬能は、新たな口腔ケア製品開発の可能性を秘めている。』